

北陸 新幹線 黒部 宇奈月

温泉駅周辺地区

(富山県黒部市)

- 計画期間 平成25年度～平成29年度
- 面積 925ha
- 交付対象事業費 1,110.9百万円
- 市人口 40,361人

ポイント 平成27年3月に開業を迎えた北陸新幹線黒部宇奈月温泉駅を中心としたまちづくり

地区概要 北陸新幹線黒部宇奈月温泉駅を中心とした広域的な交通網の確立や整備された施設の活用により、新たな交流の推進と公共交通機関の存続を図る。

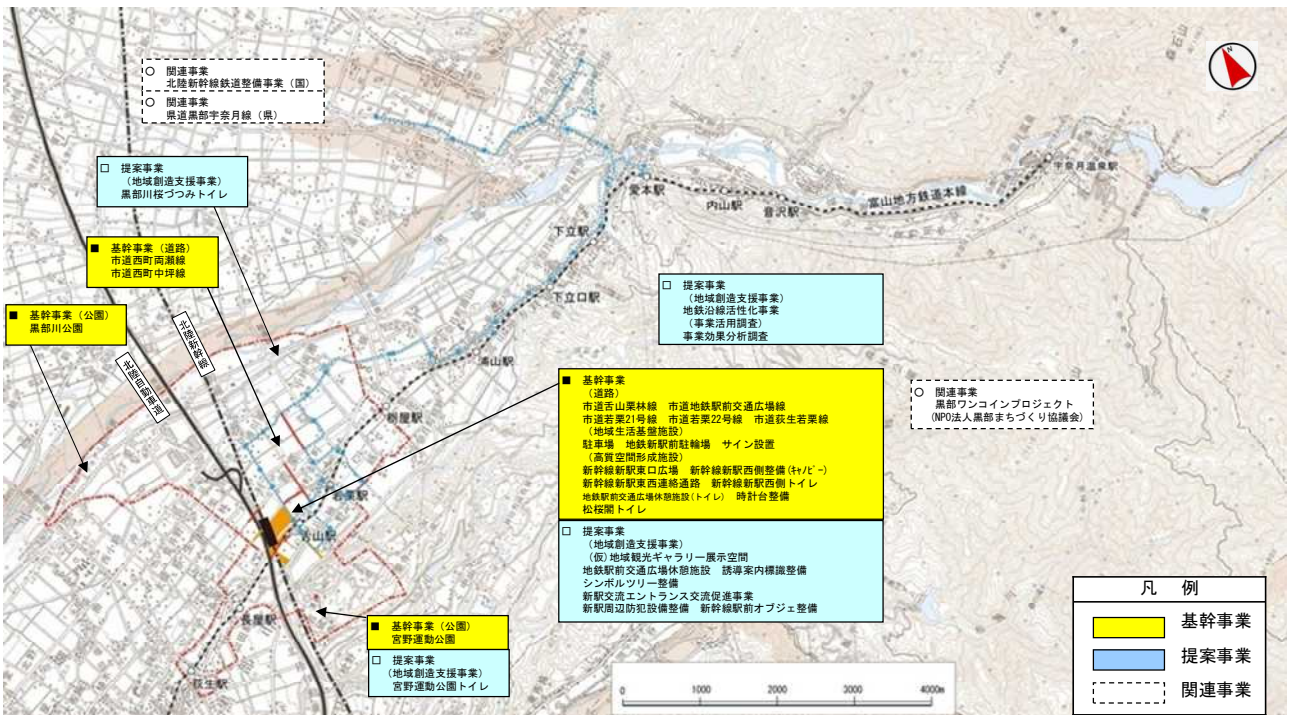
目標 新たな交流人口の拡大と公共交通の存続を図る。

- ・北陸新幹線黒部宇奈月温泉駅周辺の地域住民や来訪者を魅了する拠点づくり
- ・各種事業の実施による賑わいある拠点づくり
- ・交通結節機能の強化による、地鉄乗降客数の増加

指標 交流拠点整備や交流促進事業の実施により、観光施設や地鉄の利用者、イベントへの参加者数の増加を目標とした。

観光施設の利用者数	1,627人/年 (H23)	→	7,388人/年 (H29)
イベントへの参加人数	420人/年 (H23)	→	13,000人/年 (H29)
地区内地鉄駅乗降客数	92,232人/年 (H23)	→	237,159人/年 (H29)

- 事業内容**
- 基幹事業 (778.0百万円) → 道路 (7路線)、公園 (2箇所)、駐車場、自転車駐輪場、キャンプ、東西連絡通路
 - 提案事業 (332.9百万円) → (仮)地域観光ギャラリー展示空間、地鉄駅前交通広場休憩施設、宮野運動公園トイレ、黒部川桜づつみトイレ、地鉄沿線活性化事業、新駅周辺エントランス交流促進事業



地区の現況と課題

本地区の中心を占める若栗地区は、黒部市の北東部における中核的な農村部として推移してきた地域である。その後、現在の富山地方鉄道の開業や北陸自動車道黒部ICの設置に合わせたアクセス道路も整備されたことで、道路交通条件が著しく向上し、さらには北陸新幹線黒部宇奈月温泉駅の建設予定地となった。

平成27年3月に開業した北陸新幹線にあわせて、観光情報の提供や交通結節点として広域的な交通網を確立することにより、観光客を中心とした交流人口の拡大や公共交通の存続など、新幹線整備効果を広く波及させて地域の活性化を図る必要がある。



▲北陸新幹線黒部宇奈月温泉駅

提案事業の特徴

(仮)地域観光ギャラリー展示空間整備

にいかわ観光圏の活性化や黒部市内の来訪者の回遊促進を目的として、豊富な観光情報や地域の見どころを紹介する展示空間を(仮)地域観光ギャラリー内に整備した。



▲(仮)地域観光ギャラリー展示空間

地鉄駅前交通広場待合施設

北陸新幹線黒部宇奈月温泉駅に併設される地鉄新黒部駅の利便性向上を図るため、駅前交通広場に待合施設を設置した。



▲地鉄駅前交通広場待合施設

地鉄沿線活性化事業

公共交通機関の利用促進を図るため、北陸新幹線黒部宇奈月温泉駅や地鉄新黒部駅についての調査・検討やまち歩きマップ作成に取り組んだ。

新駅周辺エントランス交流促進事業

北陸新幹線黒部宇奈月温泉駅周辺において交流促進を図るため、開業イベント等の実施、外国人向けの案内標記、ボランティアガイド育成などに取り組む。



▲地鉄沿線活性化事業(まち歩きマップ)

計画策定プロセス

北陸新幹線新駅周辺整備計画検討委員会

行政(北陸地整、県、市)及び大学教授、鉄道事業者、まちづくり協議会等の各種団体が構成する検討委員会を開催し、新駅周辺整備や土地利用、交通、景観に対する計画を検討した。

宇奈月温泉・地鉄沿線地区都市再生整備計画事後評価委員会

平成20年度～平成24年度に実施した第1期計画の事後評価を行い、今後必要とされる事業や新たなまちづくりの目標や課題等の整理を行った。